



ヨーロッパの大理石

ヨーロッパを旅して楽しいのは、良く設計され、自然とマッチさせた街造りである。さらに我々にとって楽しいのは、天然石で造られた素晴らしい橋、道、宮殿、石影の数々である。石造りは永持ちがし、したがってそれぞれに長い歴史がきざまれている。

ヨーロッパで歴史が古い中～南部は基本的には堆積岩地域である。堆積岩でかつ加工し易い大理石・石灰岩・砂岩が主に家造りに用いられた。大理石は石灰岩がアルプス造山運動によって再結晶化(大理石化)した地域、すなわちアルプス造山帯に属するイタリアからフランス東部、ドイツ南部で得られる(本誌50-57頁参照)。

写真上はフランスグラノーブル地方のアルプス造山帯中の石灰岩である。石灰岩はアルプスでは浸食から残りメサ地形を示すことが多い。写真左はドイツ、キム湖宮殿内部であり、床や階段は純白な大理石を基調とし、各種の色・組織を持つ石灰岩を配し、柱・壁・手すりには主に石灰岩から造られているものである。

(工業技術院長 石原舜三)